



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## ウクライナでダムの決壊

### 決壊したダムとは

決壊が起きたのは 6 月 6 日の午後 2 時 50 分ごろ。ウクライナ南部のヘルソン州のドニプロ川にある水力発電のダムで、このダムが建設されたのは旧ソビエト時代の 1956 年。ダムの貯水池にためられた水の量は、およそ 18 立方キロメートルにのぼる。これは、日本の琵琶湖のおよそ 3 分の 2 に相当する規模である。決壊後大量の水が流れ出て洪水が発生し、広い範囲で浸水被害が出ている。

### 現地の状況

6 月 16 日時点では水は引き始めていますが、状況は依然として深刻だ。1 番ひどいのが、ドニプロ川の中州に位置する町で、ほぼ完全に水没した。13 日時点で避難者 2700 人以上、死者 10 人、行方不明者 41 人と発表されている。

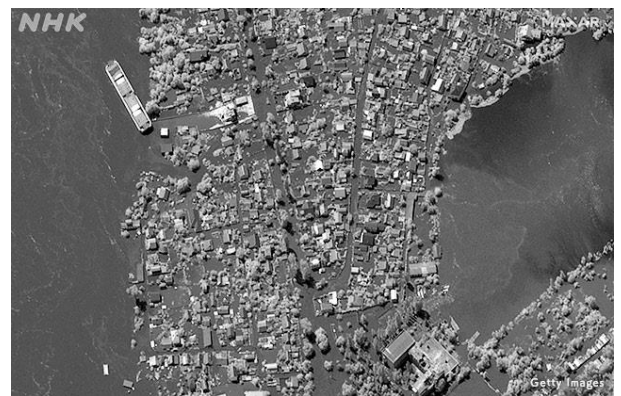
破壊された発電所から機械用の油が流れ出たため飲料水の確保が急がれますが、ロシア軍が支援活動を妨害していることもあり住民を避難させることも飲料水を届けることもできていない。水が汚染されたことで魚も多く死んでしまい生態系にも大きな影響が出ている。さらに、農業用水も川からとっていたが汚染されたため使えなくなり、農地も浸水したことにより農業もできなくなっている。

ダム決壊の復興には、これまで日本から送られてきたトラックや建設機械も使用していく。

(NHK News より)



ダム決壊前のドニプロ州の町



ダム決壊後のドニプロ州の町

このような大規模な洪水はその土地の人々の生活を一瞬にして奪うだけではなく、その後の環境問題や生態系にも大きく影響します。これまで KOMABA の総合学習でも人為的災害と自然災害について学習してきましたが、災害が起きてから元の生活に戻るまでには何年ものかかります。そのような被害を最小限に抑えるために、日ごろから備えることが大切です。今月の総合学習では「水害」について学習します。令和 2 年に起こった豪雨災害について、熊本県球磨村の復興までの話や現在の球磨村の様子をお伝えします。総合学習を通して子どもたちと一緒に災害について考えていきます。(吉信)